

症例報告

魚骨が舌背部に迷入した1例

筑田 洵一郎*¹⁾ 葎葉 清香¹⁾ 笹間 雄志¹⁾
安田 有沙^{1,2)} 八十 篤聡^{1,3)} 代田 達夫¹⁾

抄録：魚骨の迷入は、咽頭や食道壁に多く生じるとされ、舌筋内においては比較的稀である。魚骨が舌に迷入した場合には視診あるいは触診での確認が困難となり、魚骨の有無や迷入部位の診断に難渋することがある。今回われわれは、舌背部に魚骨が迷入した1例を経験したので、その概要を報告する。患者は64歳の女性で、2017年1月夕食時にメジナを煮て食べていたところ舌に骨が刺入した。魚骨は深部に迷入していたため、自身での除去は困難であったことから、翌日当科を受診した。初診時、舌背中央部に魚骨が迷入したと思われる部位に点状の出血斑を認め、その周囲粘膜が発赤、腫脹していた。CT所見では、舌背正中よりやや右側に、垂直方向に位置する長さ約13mmの線状の不透過像を認めた。舌背中央部への魚骨の迷入と診断し、局所麻酔下で魚骨摘出術を施行した。迷入部を含むように、周囲粘膜に紡錘形の切開を加え、上皮下組織を鈍的に剥離し魚骨を確認し、鑷子で把持し摘出した。摘出物はやや彎曲した13mmの硬固物であった。迅速に迷入した魚骨の摘出術を行うことが可能であったため、術後経過は良好であった。

キーワード：魚骨, 異物, 迷入, 舌背

緒言

魚骨の迷入は、咽頭や食道壁に多く生じるとされ、舌筋内においては比較的稀である¹⁾。今回われわれは、舌背中央部に魚骨が迷入した1例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。

症例

患者：64歳、女性。

初診：2017年1月。

主訴：舌背部の疼痛。

現病歴：2017年1月夕食時にメジナを煮て食べていたところ、舌に骨が刺入した。魚骨は深部に迷入していたため、自身での除去は困難であったことから、翌日当科を受診した。

既往歴：特記事項なし。

家族歴：特記事項なし。

現症：

全身所見：体格は中等度、栄養状態は良好であった。

口腔外所見：顔貌は左右対称で、その他特記すべき所見は認めなかった。

口腔内所見：舌房内で舌を安静位にした際に、下顎第一大臼歯相当の舌背中央部の粘膜に、魚骨が迷入したと思われる点状の出血斑を認め、その周囲粘膜が発赤、腫脹していた。舌背部を触診したところ、出血斑相当部の粘膜下に硬固物を触知した(図1)。

CT所見：舌背前2/3相当の正中よりやや右側に、粘膜上皮直下から筋層内にかけて、垂直方向に位置する長さ約13mmの不透過像を認めた(図2)。

初診時臨床診断：舌背中央部への魚骨の迷入。

処置および経過：初診当日、局所麻酔下にて魚骨摘出術を施行した。舌背部を触診して魚骨の位置を確認し、同部を含むような紡錘形の切開を加えた。切開部からモスキート鉗子を用いて上皮下組織を鈍的に剥離して、舌筋層内に位置する魚骨を確認し、

¹⁾ 昭和大学歯学部口腔外科学講座顎顔面口腔外科学部門

²⁾ 昭和大学江東豊洲病院歯科・歯科口腔外科

³⁾ 昭和大学横浜市北部病院歯科・歯科口腔外科

*責任著者

〔受付：2020年12月28日, 受理：2021年2月22日〕

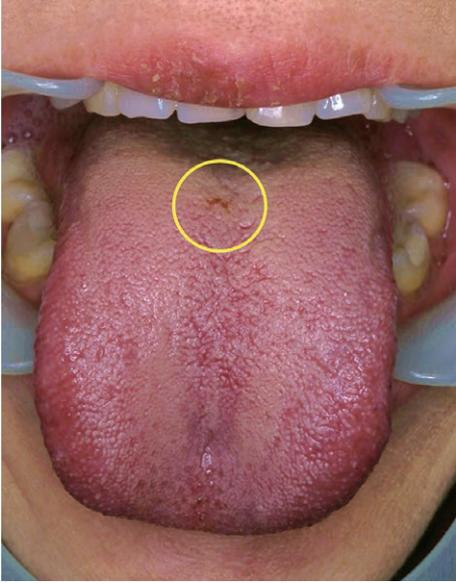


図 1 口腔内写真
舌背中央部に迷入部と思われる点状の出血斑を認め、その周囲粘膜が発赤、腫脹している。

鑷子で把持して摘出した（図 3）。創部は 5-0 ポリゲラチン縫合糸を用いて縫合した。摘出した魚骨は、やや弯曲した 13 mm 大の硬固物であった。術後経過は良好であった。



図 3 摘出物写真
摘出物はやや弯曲しており、約 13 mm 大である。

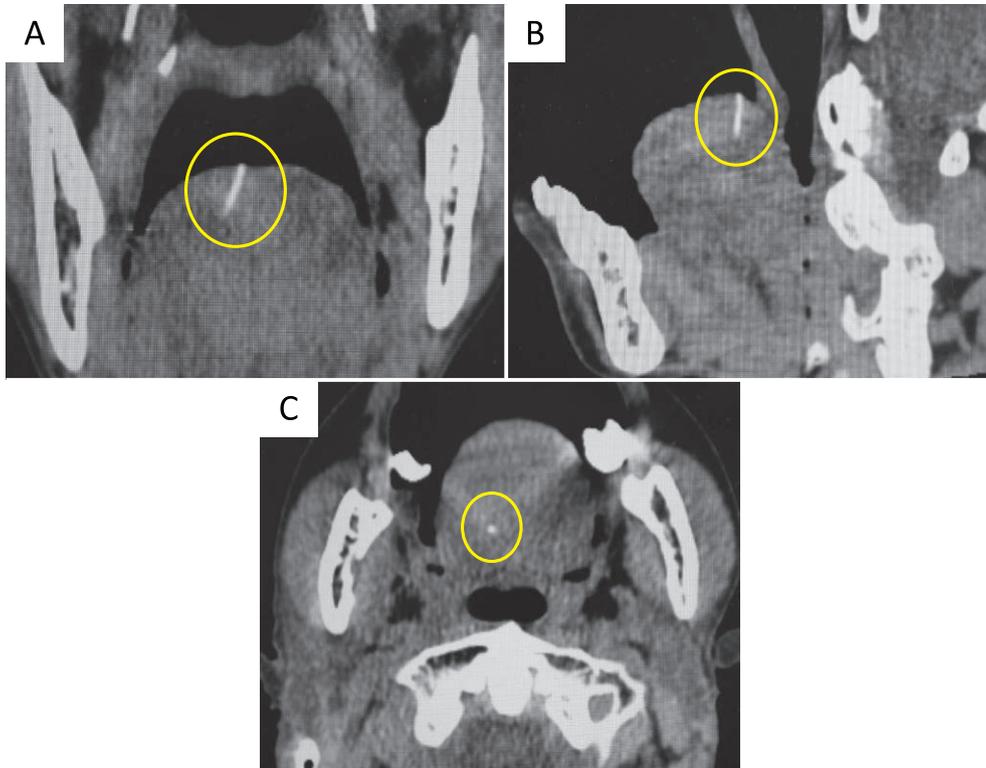


図 2 単純 CT 画像

- A: 冠状断画像
- B: 矢状断画像
- C: 水平断画像

舌背前 2/3 相当部の正中よりやや右側に、粘膜上皮直下から筋層内にかけて垂直方向に位置する長さ約 13 mm の不透過像を認める。

考 察

魚骨の迷入は魚がよく食される東アジア地域で多くみられ、頭頸部領域に発症する異物迷入症例の90%以上を占めている^{2,3)}。本邦では食事で摂取する機会が多いアジ、ウナギ、サケ、サンマなどによる報告が多い^{2,4)}。檜村ら¹⁾は、頭頸部領域に魚骨の迷入が生じた117例について解析し、その多くは中咽頭に認められ、舌に迷入した症例は1例(0.85%)であったとしている。舌は可動性が良く、味覚・触

覚が発達しているため、舌筋内に魚骨等の鋭利な異物が迷入することは稀であると考えられている⁵⁾。

1990年から2017年までの27年間に本邦で報告された舌への魚骨の迷入症例は、われわれが渉猟し得た限りでは自験例を含め16例であり^{1,5-18)}、舌背や舌体に生じた症例は4例であった(表1)。男女比は9:7と男性の報告が多く、年齢は47~83歳(平均63歳)となっており、迷入した魚骨の長さは7~30mm(平均15.9mm)であった。魚骨の長さと同迷入部位との関係について検討した報告によれば、

表1 舌に迷入した魚骨の報告症例

No.	報告者	報告年	年齢/性別	部位	症状	魚種	長さ(mm)	診断法	存在期間	治療
1	熊井ら	1990	66/女性	舌縁	舌潰瘍	—	20	触診	2-3か月	摘出 (局所麻酔)
2	金川ら	1992	66/女性	舌縁	舌腫脹, 疼痛	—	12	視診, 触診	2か月	切開排膿, 抗菌薬
3	宮坂ら	1996	60/男性	舌縁	舌腫脹, 波動	—	19	単純X線	9日	抗菌薬 (自然排出)
4	古賀ら	2001	62/男性	舌体	発赤, 舌痛, 嚥下痛	—	9	エコー, 造影CT	6か月	切開排膿, 抗菌薬
5	中川ら	2001	52/女性	舌縁	舌腫脹	サケ	17	触診	数日	抗菌薬 (自然排出)
6	山口ら	2003	71/男性	舌根	咽頭痛, 呼吸困難	—	—	喉頭ファイバー, 単純CT	0日	摘出 (全身麻酔)
7	廻ら	2005	65/女性	舌縁	舌腫脹, 発赤	—	20	視診, 触診	3日	摘出 (局所麻酔)
8	青柳ら	2008	47/男性	舌縁	顎下部腫脹	—	3	単純CT	55か月	摘出 (全身麻酔)
9	檜村ら	2008	56/男性	舌尖	膿瘍	イワシ	7	単純CT	—	摘出 (局所麻酔)
10	吉田ら	2012	65/男性	舌縁	舌痛	アジ	12	造影CT	1か月	切開排膿, 抗菌薬
11	茶藪ら	2013	83/男性	舌縁	舌痛	タイ	30	単純CT	13日	摘出 (全身麻酔)
12	鯨井ら	2014	57/女性	舌縁	舌腫脹, 舌痛	サケ	16	エコー, 造影CT, 3D-CT	1か月	摘出 (全身麻酔)
13	竹林ら	2015	70/女性	舌背	舌の違和感, 舌痛	カレイ	—	単純CT	6か月	切開排膿, 摘出 (全身麻酔)
14	千代延ら	2015	49/男性	舌根	咽頭痛	タイ	20	単純CT	1日	摘出 (全身麻酔)
15	直野ら	2015	76/男性	舌体	舌痛	メジナ	25	単純CT	2日	摘出 (全身麻酔)
16	自験例	2017	64/女性	舌背	舌の違和感	メジナ	13	単純CT	1日	摘出 (局所麻酔)

—: 記載なし

20 mm 以下の魚骨は口蓋扁桃より前方に迷入し、21 mm 以上の魚骨においては、喉頭蓋谷、下咽頭、喉頭など下位に迷入する傾向があるとされている¹⁾。今回われわれが渉猟し得た舌に迷入した魚骨の報告例についても、長さは16例中12例が20 mm 以下と過去の報告と同様の傾向を示していた。

魚骨が舌に迷入した場合には視診あるいは触診での確認が困難となり、魚骨の有無や迷入部位の診断に難渋することがある。異物となる魚骨の多くはX線透過性が高いため、検出率は5～50%と低いことから、迷入した魚骨の精査における単純X線写真の有用性は低い¹⁹⁾。一方、CTによる魚骨の検出率は97～100%とされており¹⁹⁻²¹⁾、魚骨の迷入部位を3次元的に評価できることから、魚骨の迷入部位の診断には有用であると思われる。しかし、迷入部位によっては、歯科補綴物のアーチファクト等により検出が困難となる可能性もある。MRIは、CTと比べてアーチファクトの影響が少なく、濃度分解能が高いため、画像診断をする上で有用な場合も多く、再構成冠状断を使用することでアーチファクトを軽減することができる。また、超音波検査はリアルタイムに任意の断面を走査することが可能である。したがって、魚骨の同定が困難である場合には、MRI²²⁾や超音波検査²³⁾を併用することで、診断の精度を高めることも必要であろうと考える。

自験例も含めた本邦報告例の舌内における魚骨の存在期間は、0日から最長で55か月であった。舌は知覚が発達しているため疼痛や異物感により迷入異物が長期間放置されることは少ないと考えられている⁵⁾。しかし、迷入した異物が放置された場合には、舌根部の膿瘍形成によって気道閉塞をきたすことがある²⁴⁾。本邦報告例において、受傷後30日以上経過してから医療機関を受診した症例は7例であり^{5, 6, 8, 12, 13, 15, 16)}、そのうち舌背や舌体への迷入症例を含む4例^{6, 8, 13, 16)}については、迷入魚骨周囲に感染を伴い消炎処置が必要とされていた。したがって、異物が口腔内に迷入した場合には、異物の種類、迷入位置そして感染の有無を正確に診断し、早急に摘出すべきであると思われる。

自験例は、魚骨が舌に迷入した翌日に患者が受診したことで、咀嚼や嚥下などによる舌運動によって魚骨がより深部に移動する前にCTで魚骨の迷入位置を正確に同定することができた。その結果、全身

管理等を必要とすることなく魚骨は比較的容易に摘出することができ、合併症が生じることなく良好な経過が得られた。

結 語

今回われわれは、舌背中央部にメジナの魚骨が迷入した1例を経験したので、若干の文献的考察を加え報告した。

本論文の要旨は第203回(公社)日本口腔外科学会関東支部学術集会(2017年5月27日、東京)において発表した。

利益相反

本論文に関して開示すべき利益相反状態はない。

文 献

- 1) 橋村哲生, 竹村考史, 佐生秀幸. 当科における魚骨異物症例の検討. 耳鼻・頭頸外科. 2008;80:149-152.
- 2) 和田伊佐雄, 加瀬康弘. 21年間の咽頭異物症の臨床像の検討. 口腔咽頭科. 2008;20:369-375.
- 3) 余田敬子, 森口範子, 田中裕美子, ほか. 当科における咽頭異物症例の統計的観察. 口腔咽頭科. 1991;3:165-172.
- 4) 高根宏展. 魚骨異物の診断と治療—咽頭異物喉頭異物を中心に—. JOHNS. 1993;9:457-462.
- 5) 熊井恵美, 林 達哉, 林 浩. 舌筋内異物の2症例. 耳鼻・頭頸外科. 1990;62:1189-1192.
- 6) 金川昭啓, 上村俊介. 舌膿瘍の2例. 日口腔外会誌. 1992;38:681-682.
- 7) 宮坂孝弘, 藤城建樹, 山田隆久, ほか. 魚骨迷入による舌膿瘍の1例. 歯学. 1996;83:1378-1381.
- 8) 古賀 真, 楠川仁悟, 菊池大輔, ほか. 迷入魚骨に起因した舌膿瘍の1例. 日口腔科会誌. 2001;50:320-322.
- 9) 中川靖子, 志村真理子, 田代三恵, ほか. 特異な原因によって生じた口腔粘膜外傷の5症例. 日口腔科会誌. 2003;52:31-35.
- 10) 山口仁平, 高崎賢治. 当科における魚骨異物症例の検討. 長崎医学会誌. 2007;82:71-75.
- 11) 廻 俊一. 口腔領域異物の臨床的検討. しょうけん. 2005;2004:7-9.
- 12) 青柳生織, 澤田朋啓, 吉田征之, ほか. 陳旧性舌刺入魚骨と顎下腺管唾石を合併した1例. 仙台病医誌. 2008;28:77-79.
- 13) 吉田沙絵子, 高原 幹, 岸部 幹, ほか. 魚骨迷入による舌膿瘍の1例. 日耳鼻感染症研会誌. 2012;30:63-65.
- 14) 茶藪英明, 山崎一樹, 坂本夏海, ほか. 舌・口腔底から迷入したと思われた魚骨異物症への対

- 応. *JOHNS*. 2013;29:937-941.
- 15) 鯨井桂子, 瀬尾友佳子, 吉原俊雄. 膿瘍形成した舌魚骨異物例. 耳鼻感染症エアロゾル会誌. 2014;2:87-89.
- 16) 竹林慎治, 林 泰之, 康本明吉, ほか. 非典型的口腔咽頭魚骨異物の3症例. 日腔咽頭科. 2015;28:65-69.
- 17) 千代延和貴, 石永 一, 大津和弥, ほか. 術中CT撮影が有効であった舌迷入魚骨異物の1例. 日耳鼻会報. 2015;118:757-762.
- 18) 直野秀和, 植木義裕, 岩永英憲, ほか. 切開・摘出を要した魚骨異物2例. 耳鼻と臨. 2015;61:177-181.
- 19) 山口陽生, 倉富勇一郎, 佐藤慎太郎, ほか. 頸部外切開により摘出した咽頭腔外魚骨異物の1例. 日気管食道会報. 2013;64:281-286.
- 20) 中野誠一, 川田仁美, 佐藤孝宣, ほか. CTが有用であった咽頭腔外魚骨異物例. 耳鼻臨床. 2007;100:1009-1013.
- 21) 嘉田真平, 吉田充裕, 林 正彦. 咽頭腔外魚骨異物例. 耳鼻臨床. 2006;99:115-118.
- 22) 兵頭政光. 耳鼻咽喉科疾患の最新画像診断 咽頭・喉頭・気管食道. 日耳鼻会報. 2015;118:1182-1185.
- 23) Kulkarni CD, Verma AK, Kanaujia R. A rare case of hemilingual abscess in a 17-year-old girl: the ease of ultrasound and the advantage of MRI. *Jpn J Radiol*. 2013;31:491-495.
- 24) Sanders AD, Yeh S, Paige M, *et al*. Lingual abscess presenting as airway obstruction in the Infant. *Otolaryngol Head Neck Surg*. 1988;99:344-345.

A case of fish bone migration in the dorsum of the tongue

Junichiro Chikuda^{*1)}, Sayaka Yoshiba¹⁾, Yuji Sasama¹⁾,
Arisa Yasuda^{1,2)}, Atsutoshi Yaso^{1,3)} and Tatsuo Shirota¹⁾

Abstract — Fish bone migration is often seen in the pharynx and esophageal wall. It is relatively rare to find it in the tongue, where it is difficult to confirm by inspection or palpation. Here we report a case of fish bone migration in the dorsum of the tongue. The patient was a 64-year-old woman with a fish bone lodged in the tongue. This occurred while she was eating *Girella punctata* at dinner in January 2017. The fish bone was difficult for her to remove on her own, due to the depth of its migration, so she visited our department the next day. Examination revealed petechiae in the central part of the dorsum of the tongue, where the fish bone was thought to have migrated, and the surrounding mucosa showed redness and swelling. Computed tomography showed a linear opaque image with a length of approximately 13 mm that was located vertically to the right of the midline of the dorsum of the tongue. We diagnosed the case as fish bone migration in the central part of the dorsum of the tongue. With the patient under local anesthesia, we made a spindle-shaped incision in the surrounding mucosa, including the migration site, and bluntly peeled the subcutaneous tissue to confirm the presence of the fish bone, which we removed using forceps. The excised material, with a length of approximately 13 mm, was slightly curved and hard. As the migrated fish bone was removed quickly, the patient's course was favorable without complications.

Key words: fish bone, foreign body, migration, dorsum of the tongue

[Received December 28, 2020 : Accepted February 22, 2021]

¹⁾Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Division of Oral and Maxillofacial Surgery, Showa University School of Dentistry

²⁾Showa University Koto Toyosu Hospital, Dental and Oral Surgery

³⁾Showa University Northern Yokohama Hospital, Dental and Oral Surgery

* To whom corresponding should be addressed